

メッセージアウトライン

ガラテヤ 5：19~26「御霊による前進」

「肉の行ないは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、酩酊、遊興、そういった類のものです」(19~21)

ここにあげられている肉の行ないの数々は罪の一覧表とも言えるものである。それは四つの種類に分けることができる。

性的な罪 - - 不品行、汚れ、好色

まことの神を否定する異教的罪 - - 偶像礼拝、魔術

人間関係を破り傷つける罪 - - 敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ

不節制の罪 - - 酩酊、遊興

これらは罪の支配下にある人間が、その生まれながらの肉の欲望に従っていくときに結ぶ実である。そしてそのようなことを続けていくとどうなるかということも 21 節の後半にはっきり書かれている。「こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません」

これは私たちクリスチャンに対する警告である。私たちは肉の行ないの実を結ばないように気をつけていなければならない。私たちが結ぶべき実は肉の行ないによるものではなく、御霊によるものでなければならない。

「しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません」(22,23)

これらの実は九つある。御霊に導かれ、御霊により頼む人はこのような実を結ぶバランスのとれた人となることができるのである。そして「このようなものを禁ずる律法はありません」と言われているとおり、肉の力では何としてもできなかった律法を御霊の実を結ぶことによって満足させることができるのである。クリスチャンこそかえって律法を全うすることのできる者なのである。

このような御霊の実を結ぶ者は、「自分の肉を、さまざまの情欲や欲望とともに、十字架につけて」(24)しまっている。自分が十字架につけたのではなく、キリストが十字架で死なれた時、私たちの肉も十字架につけられて死んでしまった。

ロ-マ 6:6 クリスチャンはこれを信仰によって受け入れている者。

「もし私たちが御霊によって生きるのなら、御霊に導かれて、進もうではありませんか。互いにいどみ合ったり、そねみ合ったりして、虚栄に走ることはないようにしましょう」(25,26) ここは 25 節が勧めで 26 節が警告となっている。

私たちはすでにキリストのものであるが、なおこの地上にある間は、現実の肉との戦いがある。しかし、主はすでに十字架においてサタンのわざを砕き勝利を得ておられる。

私たちはこの主に感謝しつつ、信仰生活の助け手である御霊に信頼し、御霊に導かれ、御霊の実を結ぶ者として歩んでいきたい。

最後にヨハネ 16:33